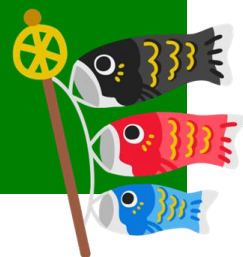




みんなちがって みんないい

令和8年5月13日 5月全校朝会



しじん かねこ 詩人の 金子みすゞ さんの詩を 紹 介 します。

「わたし小鳥ちやん」

金子みすゞ



わたしが両手をひろげても

お空はちこともとべないが、

とべる小鳥はわたしのようじ

地面をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすっても

きれいな音はでないけれど

あの鳴るすずはわたしのよつに

たくさんなうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし

みんなちがって、みんないい。



そら と ことり おと な すず わたし
空を飛べる小鳥、音を鳴らす鈴、そして、そんなことはできない「私」。

でも「私」は、ある 歩いたり、うた 歌ったりすることができる という詩です。この詩は、

だれ こそ い たいせつ そんなに
誰もがちがったよさ・個性をもっていてそれぞれが、大切な存在である

ということを伝えていきます

ひがしのしょうがっこう
東野小学校の
みなさん一人一人が
特別な存在であり
大切な存在です

この詩の中に出てくる
みんなちがって、みんないい
という言葉のとおり

ひとりひとりによさがあり
それぞれのよさや
がんばりを認め合い

相手も、自分自身も
大切に
生活してほしいと思います

がっこう ふだんつか きょうしつが い
学校には、普段使っている教室以外にも、

にここにこルームやふらねっとルームなど、いろいろな場所があります。

どの場所も、その人が自分のもっている力を出しやすくするための大切な学びの場所です。

ふだん きょうしつ ほかに ばしよ す ひと
普段の教室でなくて、他の場所で過ごす人がいたとき、それは、

その人に合った学び方で勉強したり、生活したりするための大切な学びの場所です。

だから、その人のことを、自分とちがうからといってへんな目で見たり、からかったり、
いやな言い方をしたりすることはとても悲しいことなので、絶対にしないでください。

まな かた
学び方がちがうことは
悪いことでも
はずかしいことでも
ありません

がっこう
学校は
だれもが安心して学び
友だちと過ごせる場所
でなければなりません

あいて
相手のことを決めつけず
ちがいを認め合い
思いやりの心をもって
行動することが大切です

みんなが
笑顔で過ごせる
学校にしていきたいと思います